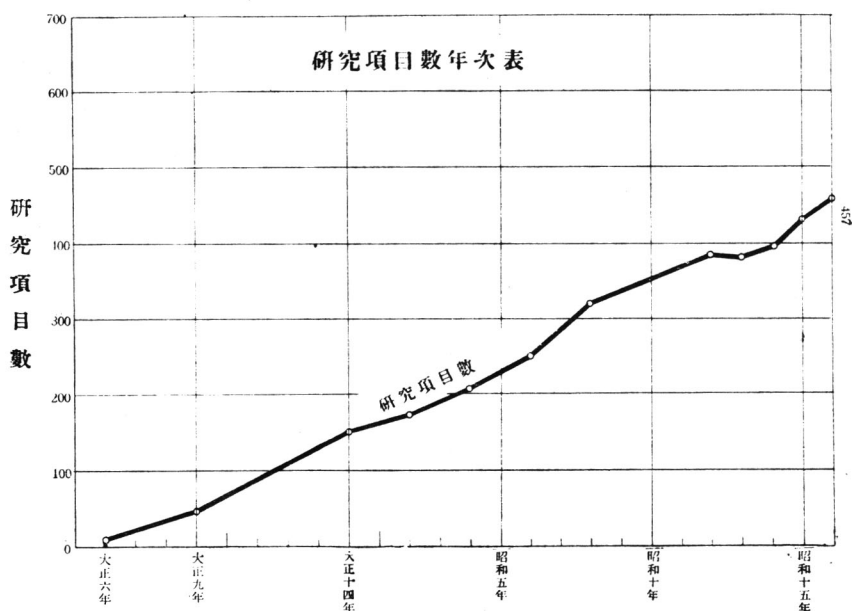


第4章 業績概観

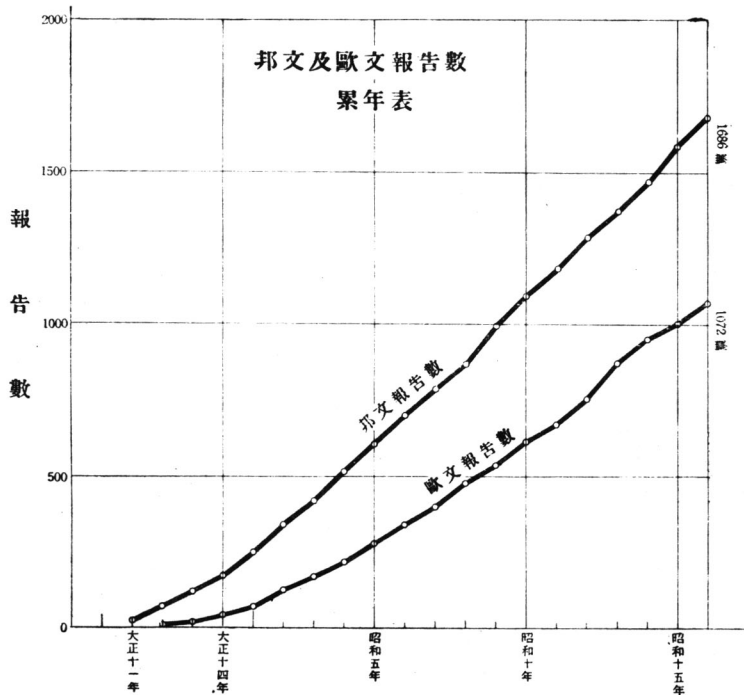
I. 業績總覽

當所に於ける研究は基礎物理學，應用物理學，無機及理論化學，有機及生物化學等多方面に亘つて居り研究項目は第2圖に示す如く年を経ると共に漸次増加し現在登録されて居るもの

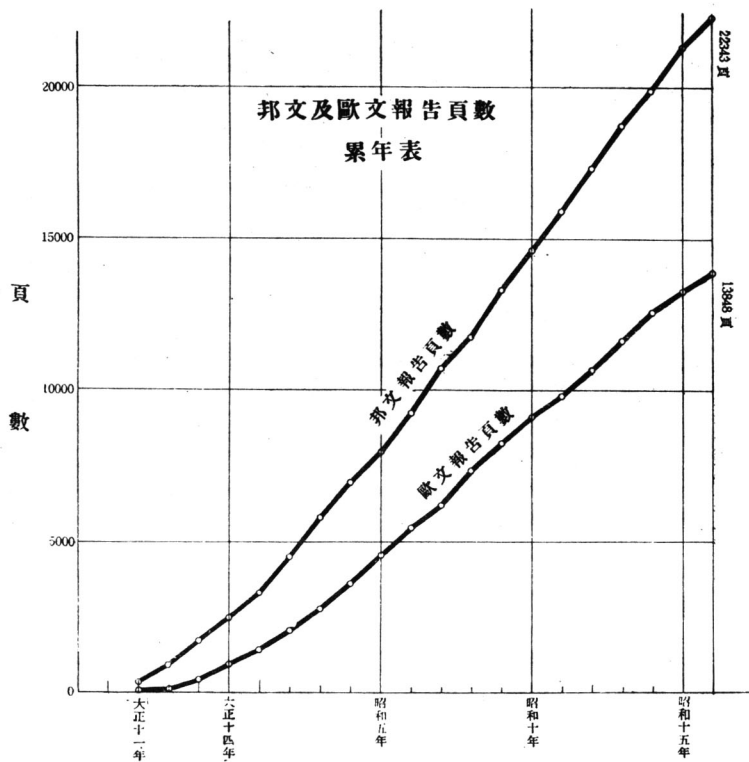


第 2 圖

は 457 である。研究結果は毎年 6 月及 12 月の二回に催される學術講演會に於て發表せられるが、毎回約 200 の新しい發表がある。報告は邦文及歐文の双方で出版されるが、邦文は理化學研究所彙報として、歐文は The Scientific Papers of the Institute of Physical and Chemical Researches, Tokyo として兩者共毎月一回出版される。つひ近年迄は歐文報告は世界各地に配布され歐米人に廣く讀まれ、本邦學界の發表として重きをなして居つた。創立以來昭和 16 年迄に出版せられたるもの、邦文報告 1686 篇 22343 頁、歐文報告 1072 篇 13848 頁であり其の累年出版狀況は第 3 圖及第 4 圖の如くである。



第 3 圖



第 4 圖

當所に於ける研究により學位を授與せられたる者は總數 118 名で下記の如くである。(昭和 16 年 2 月調)

理學博士	75 名
工學博士	22
農學博士	18
醫學博士	3
合 計	118

尙當所は研究者を養成し研究を進めつつある他に多くの科學者を社會に送り出してゐる。即ち當所に入所勉學研究をなし、後に各地帝國大學、私立大學、専門學校等の教授、助教授等に任用せられたる者は 93 名(昭和 16 年 2 月 1 日現在)の多きに上つて居る。

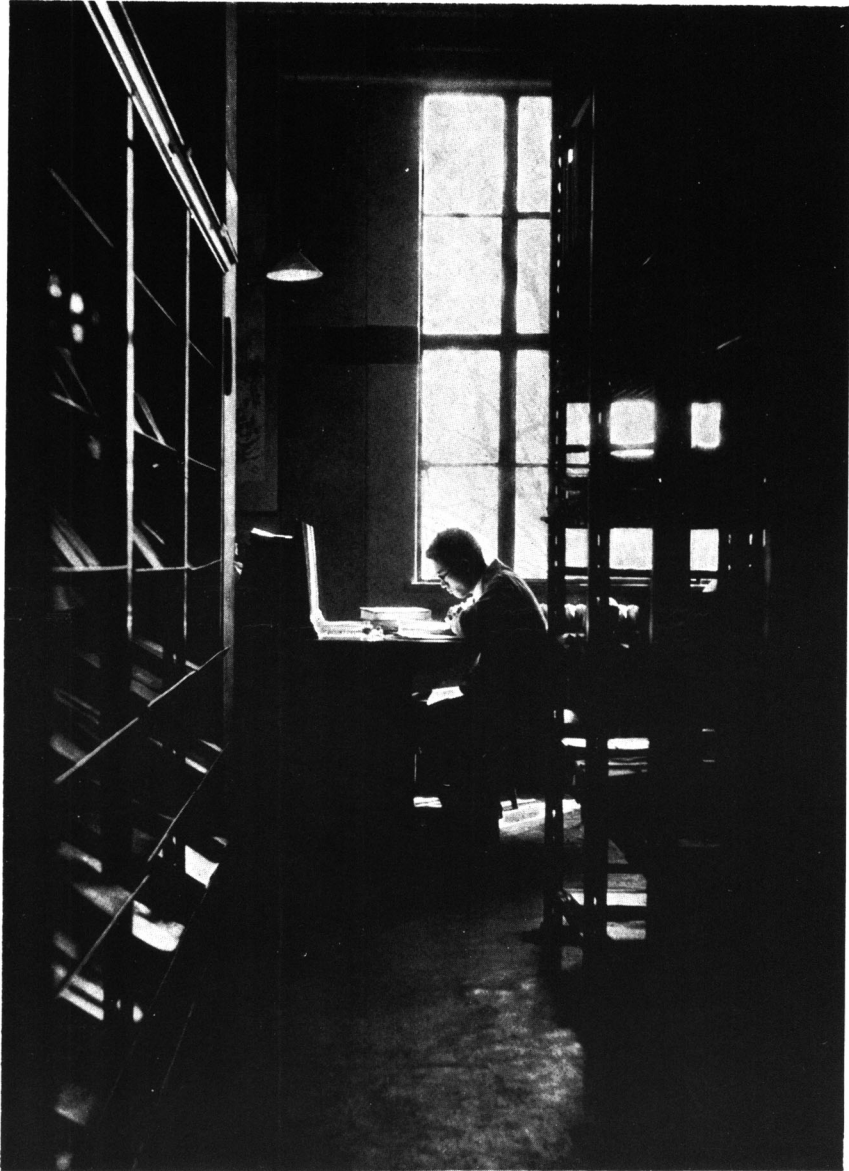
又當所に於ける研究の結果により帝國學士院を始め多くの機關より褒賞せられたるもの 66 件に及んで居る。以下に其研究項目及人名を研究室別に記載する。

當所に於ける研究業績に依り褒賞せられたもの

(研究室名 50 音順)

所屬研究室	受賞者	褒賞名	研究事項	受賞年月
青 山	青 山 新 一	日本化學會櫻井賞	低溫化學に關する研究	昭 昭 16. 4
"	神 田 英 藏	同 上	同 上	" "
赤 平	赤 平 武 雄	日本ラヂオ協會功績賞	高電氣抵抗體の研究及製作	昭 和 12. 4
飯 盛	飯 盛 里 安 } 武 部 俊 正 }	日本化學會櫻井褒賞	ハロゲン化銀電極を用ゐる 活光電池の増感竝に其應用	大 正 10. 4
石 川	石 川 總 雄	同 上	化學變化の熱力學的研究	昭 和 6. 4
大 河 内	渡 邊 俊 平	帝國發明協會進歩賞	音響記録方式(トーキーの 録音方式)	昭 和 8. 4
"	大 河 内 正 敏 } 海 老 原 敬 吉 }	帝國發明協會恩賜記念賞	ピストンリングの研究	昭 和 8. 4
"	大 河 内 正 敏 } 海 老 原 敬 吉 }	帝國發明協會大賞	同 上	" "
"	今 富 祥 一 郎	帝國發明協會特等賞	マグネシウム電解装置	昭 和 10. 5
"	大 河 内 正 敏 } 今 富 祥 一 郎 }	帝國發明協會恩賜記念賞	マグネシウム製造法	昭 和 13. 3
"	同 上	帝國發明協會大賞	同 上	" "
"	大 越 諄	日本學術協會賞	ミリングカツタの研究	昭 和 11. 10
"	同 上	服部報公賞	切削工具に關する研究	昭 和 15. 10
"	田 口 泖三郎	日本學術協會賞	トーキーに依る日本語の研究	昭 和 12. 8
"	大 山 義 年	同 上	粒體の混合の研究	" "
片 山	水 島 三 一 郎	日本化學會櫻井賞	電波の吸收	昭 和 4. 4
"	同 上	帝國學士院學士院賞	分子の極性(竝にラマン效果)	昭 和 13. 5
"	堀 内 壽 郎	帝國學士院恩賜賞	反應機構論	昭 和 15. 5
"	久 保 昌 二	日本學術協會化學賞	氣體の透電恒數	昭 和 15. 9
"	千 谷 利 三	服部報公賞	同位元素の化學	昭 和 15. 10





木村(正)	宮西通可	福岡日日新聞文化賞	不知火に就ての研究	昭和 15. 4
"	同上	日本學術協會賞	不知火の神秘性に就て	昭和 16. 8
菊池	菊池正士	服部報公賞	陰極線の結晶に依る廻折の研究	昭和 6. 10
"	同上	帝國學士院 メンデルホール賞	同上	昭和 7. 5
久保田	久保田勉之助	日本化學會櫻井褒賞	有機化學に於ける接觸反應の研究	大正 14. 4
鈴木	鈴木梅太郎	帝國學士院學士院賞	オリザニンの研究	大正 13. 6
"	同上	帝國發明協會恩賜記念賞及大賞	オリザニンの發明	大正 15. 9
"	同上	帝國發明協會特等賞	合成清酒の製法	昭和 4. 10
"	同上	獨逸自然科學學士院會員	オリザニンの發見及蛋白化學の研究	昭和 7. 2
"	高橋克己	帝國學士院學士院賞	ビタミンAの研究	大正 13. 6
"	同上	日本化學會賞	ビタミンAに就て	大正 13. 4
"	同上	帝國發明協會特等賞	同上	昭和 4. 10
"	鈴木文助	帝國學士院恩賜賞	脂肪酸及之を含有する生物體成分の研究	昭和 8. 5
"	佐橋佳一	日本農學會賞	オリザニン成分B酸の研究	昭和 5. 4
"	武居三吉	帝國學士院學士院賞	デリス根の有效成分ロテノールの化學的構造に關する研究	昭和 9. 5
"	前田司郎	日本學術協會賞	蛋白質分解物を用ゆる動物飼育試験	昭和 12. 8
"	佐橋佳一 武内邦次 島本鶴造 伊本常安	帝國發明協會特等賞	B(10)オキシカンファーの製法	昭和 16. 3
"	藪田貞治郎 下瀬林太郎 大嶽六郎			
鈴木(庸)	鈴木庸生 櫻井季雄	帝國發明協會進歩賞	ウルトラゼンの發明	大正 15. 9
"	同上	帝國發明協會優等賞	同上	昭和 4. 10
"	櫻井季雄	日本學術協會賞	赤外線寫眞の研究	昭和 10. 10
"	同上	服部報公賞	感光色素の研究	昭和 12. 10
瀬藤	植木榮 瀬藤象二	帝國發明協會賞	アルミニウム電氣絶縁性皮膜の製法	昭和 10. 5
"	瀬藤象二 宮田聰	日本學術協會賞	アルミニウムの電解酸化の機構	昭和 10. 10
"	宮田聰	帝國發明協會賞	乾式電解蓄電器	昭和 16. 3
高嶺	高嶺俊夫	帝國學士院恩賜賞	スタルク効果の研究	大正 11. 5
辻	辻二郎	帝國發明協會恩賜獎勵金	光彈性實驗の發明	昭和 6. -
"	同上	帝國學士院恩賜賞	光彈性實驗の研究	昭和 8. 5
長岡	長岡半太郎	文化勳章		昭和 12. 4
"	同上	Honorary Doctor of Science, Cambridge University, England.		大正 14. 9

長岡	長岡半太郎	Honorary Member of Leningrad Academy of Science.		昭和 8. -
"	杉浦義勝	服部報公賞	プロトンの廻折現象の研究	昭和 7. 10
西川	中泉正徳	服部報公賞	癌の集光照射療法	昭和 13. 10
"	仁田勇	日本化学會櫻井褒賞	X線に依る結晶構造の研究	昭和 14. 4
西	西健	浅野獎學賞	高電壓工學の理論的及實驗的研究	昭和 8. 1
深川	小竹無二雄	日本化学會眞島賞	有機化合物構造式決定の研究	昭和 16. 4
本多	本多光太郎	文化勳賞		昭和 12. 4
"	同上	ベツセマー賞	鐵鋼に関する研究	大正 11. 4
"	同上	製鐵功勞賞	同上	大正 15. 4
"	同上	帝國發明協會賞	同上	昭和 5. 5
"	同上	エリオットクレツソン賞	同上	昭和 6. 5
眞島(利)	黒田チカ	日本化学會眞島賞	紅の色素カーサミンの研究	昭和 11. 4
"	尾形輝太郎	服部報公賞	感光色素の研究	昭和 12. 10
"	同上	帝國學士院學士院賞	感光色素合成の研究	昭和 16. 5
"	川合眞一	日本化学會眞島賞	エゴノールの研究	昭和 15. 7
和田	和田猪三郎	日本學術協會賞	理科教育への貢献	昭和 15. 8

當所創立以來 25 年間に於てなされたる研究の内容は上記の邦文及歐文報告に詳細が載つて居るが其數は廣範圍に亘り夥しき數となるので其各に就て此處に記載する事は不可能であるが、是等の内比較的理解しやすく、一般に興味あるものを選び以下の各章に其の概要を記載する。此處に記載するのは既に一應研究を完成し、發表せられたるものに限定した。今尙研究途上にあるものは此他に多數あると了解されたい。元より研究に終りは無いのであるから是處に記載するものと雖も今尙引續き研究せられて居る事は云ふ迄もない。又學術上非常に重要なものでも、内容のあまりに難解なるものは省略する事にした。多數の研究に就き極めて限られたる紙面の内に記述しなければならぬ關係上、極端に要約してあるので委細を盡し得ぬのは勿論であつて、個々の問題に興味を持たれる讀者は當所既刊の出版物或は研究者自身に就て詳細を究められたいと思ふ。

以下の各章に於ては研究の種類に依り基礎物理學、應用物理學、無機及理論化學、有機及生物化學の四類に分類したが、研究に多角的な面が多く上記の四類に明確に分類する事は困難な場合が多々あるので分類は便宜的なものとして御承知願ひ度いのである。